

住宅の夢の終わり

2022年に200万元で購入した広州の家が、2024年には100万元にまで値下がりした。これは単なる数字の話ではなく、世界のパラダイムシフトを映し出す鏡だ。

「不動産は価値を失わない」という伝統的な知恵は崩れ去った。この下落は中国に限ったことではなく、世界中の住宅市場が前例のない調整を経験している。しかし、この調整は避けられないものだったのかもしれない。情報技術と知識経済が支配する現代において、不動産の基本原則はますます時代遅れになっているように思える。

建筑业的核心并非技术创新，而是深陷于复杂的土地政策、管理层级和政府管控之中。这种传统模式与我们日益数字化的世界愈发格格不入。

本当に興味深いのは、人々のマインドセットの進化です。私たちは、個人が価値を評価する方法における根本的な変化を目の当たりにしています。このAIが牽引する知識重視の時代において、人々は富と投資に関する長年の前提に疑問を抱き始めています。彼らの目は新しい可能性に向けて開かれ、この変化する状況の中で本当に重要なものは何かを再考しているのです。

伝統的な住宅市場の終焉は、デジタル時代における価値観の新たな理解の始まりなのかもしれません。